

# 始良・伊佐地域青少年育成だより

発行  
始良・伊佐地域青少年育成推進協議会  
第45号 令和3年7月

〒899-5212始良市加治木町諏訪町12  
始良・伊佐地域振興局総務企画課地域振興係  
TEL 0995-63-8109 FAX 0995-63-8108  
HP 鹿児島県始良・伊佐地域振興局 健康・福祉→検索

## 「令和3年度県青少年育成県民会議」総会書面開催

標記総会は、6月3日（木）に県青少年会館で開催の予定でしたが、昨年度に引き継ぎ、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面開催となりました。通常なら県下各地から多数の会員が集い、前年度の事業報告・収支決算及び本年度の事業計画・収支予算等を協議して、承認するところですが、本年度は、書面での承認となりました。

また、6月11日（金）に令和3年度青少年育成県民会議の表彰式が開催され、6名の個人と3団体が表彰されました。

### 【青少年育成指導者の部】

氏名(市町村)	活動の主な内容	氏名(市町村)	活動の主な内容
永井 正雄 (鹿児島市)	48年の長きにわたり子ども達に野外活動をとおして、ボーイスカウト運動に尽力された。	柿元 紘一 (日置市)	教職員を定年退職後、ソフトテニス部の外部指導者として16年間青少年育成に関わった。
馬場畑 末治 (指宿市)	16年間、指宿市青少年育成推進員として、体験活動を通した生きる力の育成に取り組んだ。	三園 秀幸 (垂水市)	22年にわたり、垂水市青少年育成指導員として企画運営に携わり、健全育成に貢献。
三浦 芳子 (曾於市)	昭和43年に自宅の敷地にミニ図書館を開館し、「お話会」等の活動を継続している。	泊 秋敏 (屋久島町)	42年の長きにわたり、地域や町の子ども会の育成、指導者、役員に携わる。



### 【青少年団体・グループの部】

団体名(市町村)	活動の主な内容
ガールスカウト鹿児島県連盟第3団 (指宿市)	創立50周年を迎える第3団は連盟の使命「…他の人々の幸せと平和のために…」に基づき、指宿地区でスカウト(支援・育成)活動を展開してきた。清掃活動、奉仕活動、ボランティア活動など、住民から多くの賞賛する声が寄せられている。今後も地域に根ざした活発な活動が期待できる団体である。

### 【青少年育成団体の部】

団体名(市町村)	活動の主な内容
西俣盛り上げ隊 壮青年部 (鹿屋市)	青少年健全育成のための様々な活動に取り組んでいる団体である。学校行事や災害等の後片付け作業、イベントでの義援金活動、地元出身者への激励横断幕の作成代金や寄付金等の募金活動など青少年育成に多大な貢献をしている。
曾於市 更生保護女性会 (曾於市)	設立から14年間、「青少年に母の愛を」の精神を会員一人一人が自覚し、更生保護活動はもとより、青少年育成活動や子育て支援活動を実践している団体である。青少年の健全育成及び更生保護に大きく尽力されている。



## 「令和3年度始良・伊佐地域 青少年育成推進協議会」総会書面開催



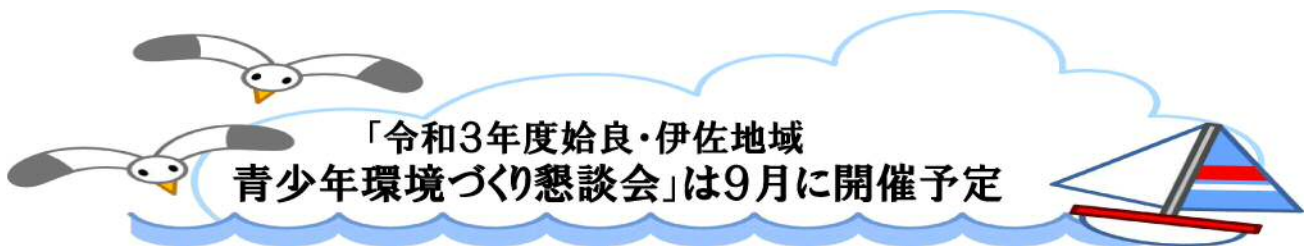
標記総会は、本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各委員の方々に総会資料を送付しての、書面開催となりました。本来ならば、青少年育成市町民会議会長（各市町長）をはじめ、教育事務所長や警察署、各市町社会福祉協議会、PTA連絡協議会等関係団体の代表、青少年育成コーディネーター、地域振興局長等が出席して協議する予定でしたが、書面での開催となりました。

送付された総会資料には、令和2年度事業活動報告や令和3年度活動方針及び事業計画案、「郷土に学び・育む青少年運動」に関する管内4市町の取り組み状況が掲載されています。さらに、県民運動に関する参考資料等も同封されています。

本年度も「郷土に学び・育む青少年運動」を推進し、昨年度より大きな成果を収めるため、「かごしま地域塾」や「少年の主張」など多くの事業を一層拡充し、積極的に推進して参ります。会員の皆様には、送付された資料を熟読して頂き、昨年度同様のお力添えを宜しくお願いします。



「第43回少年の主張鹿児島県大会」作文一次審査会で  
宮脇 大果さん（横川中2年）「今を生きる」が入賞！！  
8月8日開催の県大会へ見事出場！！



## 「令和3年度始良・伊佐地域 青少年環境づくり懇談会」は9月に開催予定

標記の懇談会を9月に開催する予定です。青少年健全育成活動の拡充を図るためには、まず、指導者の方々に時代の流れに即応した新たな指導方法等を学んで頂き、指導者として一層の資質向上を図るために開催するものです。関係者の皆様は奮って御参加・仲間への声かけにお力添えください。

### 青少年の健全育成のためにみんなで定着させましょう！！

毎月の第3土曜日は、「青少年育成の日」

毎月の第3日曜日は、「家庭の日」

毎月の19日は、「食育の日」「育児の日」

★管内の小・中・高等学校では、職員室の行事黒板に毎月明記し、  
、該当週の金曜日に、各学級での呼びかけ指導の督励に努めています。

さらに、家庭の日は「サンデーファミリアン（家族揃っての食事会）」の実施を目指しています。





# 「ひとり子も我が子」 町民みんなで育む湧水の子 湧水町の青少年健全育成活動

湧水町青少年育成町民会議では、夏休み期間中に、自主性・協調性・忍耐力を培う「チャレンジャー湧水っ子」事業、夏休み明けには家庭を離れ、異年齢集団による宿泊学習を通し、自らの甘えや依存心を断ち切り、自主性・協調性・忍耐力・社会性を培う「ふるさと学寮」など、各種事業を行っています。

また、毎年学期始めには湧水町内の通学路で小・中学生に交通安全指導を含めた、ひと声添えたあいさつ運動・愛の安全パトロールを実施しています。

## ～チャレンジャー湧水っ子～

令和2年度の事業は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりましたが、毎年夏休み期間中に町内小・中学生20名が、自炊活動・海釣り体験・魚捌き体験など、普段湧水町でできないような海洋型の体験活動を行っています。

令和3年度からは、実施場所を長島町から南大隅町に変更し、普段体験できない異年齢集団による生活、自主的に動き、時には我慢・協調することの大切さを学び、子どもたちが自らいろんな体験にチャレンジする事業を実施する計画です。



地元の子どもたちとの地引網体験



魚捌き体験



宿舎の店主と記念写真

## ～ふるさと学寮～

令和2年度の事業は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりましたが、令和元年度より全日程を栗野岳ログ・キャンプ村において、家庭を離れて異年齢集団による生活体験をしながら、学校に通学する活動を行っています。期間中は、自分たちが住んでいる校区の自慢を紹介しあう校区自慢大会や、元湧水町文化財保護審議員会長による郷土学習、栗野岳にあるふれあい牧場で、引退した競走馬とのふれあい体験等を令和元年度は行いました。子どもたちは、自然と触れ合う活動、地元を知る郷土学習を通して、湧水町の歴史や魅力について多くのことを学びました。



郷土学習の風景



学習風景



競走馬とのふれあい体験

# 令和3年度ニッセイ財団児童・少年の健全育成助成団体 紹介

ニッセイ財団は、毎年「広がり、元気っ子活動」として、地域において定期的・継続的に実施している子どもたち自身が主人公となって行う自然体験・仲間づくりや文化の伝承活動や地域の子育て支援活動に対して都道府県知事の推薦に基づき助成し、活動の輪を広げています。令和3年度の助成団体にスポーツクラブ「伊佐カヌークラブ」が決定したので紹介します。

## 「伊佐カヌークラブ」

- (1) 代表者 竹牟禮 修  
 (2) 設立年月 平成13年4月  
 (3) 団員数  
 小学生 10人 中学生 7人  
 高校生 4人 指導者 4人  
 計 25人



カヌー体験

### (4) 活動の趣旨

九州第二位の一級河川である川内川が私たちのホームグラウンドです。地域で行われる水辺関連のイベントへの積極的な参加やカヌー体験のサポート活動等を行っています。このような活動が地域に認められ、会員数が徐々に増えてきました。また、練習水域でのボランティア活動も行っています。

### (5) 主な活動（令和2年度）

- 毎月 河川清掃  
 7月 カヌー教室サポート  
 メモリアルマッチ2020  
 8月 湧水町川下りサポート  
 クラブ記録会  
 9月 県大会  
 10月 市カヌー競技長距離記録会  
 九州カヌースプリント選手権大会  
 12月 九州カヌー冬季合同合宿  
 1月 初漕ぎ会



プールで水辺の安全教室



河川清掃活動

竹牟禮 修 会長は、「昨年から新型コロナウイルス感染症が全世界で猛威を振るい多くの犠牲が出ている事に心よりお見舞い申し上げます。

そのような中、私たち伊佐カヌークラブの活動も少なからず影響を受けておりますが、幸いにして、私たちのホームグラウンドである川内川は、いつも通りに悠々と流れております。感染症対策を講じながらの範囲ではありますが、自然体験活動や河川清掃を行っております。なお、今年度はカヌー一式購入費として、素晴らしい助成金を賜りましたことを心より感謝いたします。

これからも微力ではございますが、子どもたちが心豊かに成長することをめざして、地域密着型の青少年健全育成活動を続けて参ります。この度は、ありがとうございます。」と述べられました。

伊佐カヌークラブの皆さんの積み重ねている活動の成果が、2023かごしま国体にもつながっていくことを願っています。

御高覧の皆様も、湯之尾滝上流川内川を訪れ、自然の中で活動する未来を担う子どもたちを是非応援ください。



湯之尾滝上流 川内川



## 「第43回少年の主張鹿兒島大会」が

来る8月8日（日）に県青少年会館で開催。今年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、関係者以外の入場を制限して開催される予定です。





## 加治木校区コミュニティ協議会

### 「ウオークラリー大会」 地域の魅力と危険箇所

始良市の加治木校区コミュニティ協議会は 5月30日(日)、地元の名所を巡りながら、地域の魅力と危険箇所に気づいてほしいと「ウオークラリー大会」を開催した。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から恒例の校区運動会を中止せざるをえなく、代わりに健康づくりを兼ねて開催された。チーム19組、総勢77人がコマ図を使って、クイズに挑戦しながらウオークラリーを楽しみました。

協議会の井手ノ上憲明会長は「加治木が史跡の宝庫だと気づいてほしい。地元を知ることによって防災面にも役立ててほしい」と述べられた。加治木小の海拔5Mということを知り、校区が平地であることを改めて認識できたと思います。加治木小の先生は「授業にも取り入れる事ができる」と感想をもらいました。

また、事務局では「コロナ禍でも開催できる事業として、次回も頑張ります」と盛会を笑顔で話されました。



ウオークラリー大会問題		Aコース
問題1 (CP1) 題3	この写真の名称(名称)はなんですか?	
問題2 (CP2) 題5	ここに写る方々の服装は何と書かれていますか?	
問題3 (CP3) 題7	この写真の場所は何時代ですか?	
問題4 (CP4) 題10	ここは加治木小の敷地内ですか?	
問題5 (CP5) 題11	この写真の場所は何ですか?	
問題6 (CP6) 題13	この写真の場所はなんですか? (かまのり)に込められていませんか?	
問題7 (CP7) 題15	この写真は学校の敷地内ですか? この写真は何から写っていますか?	
問題8 (CP8) 題18	この写真はなんですか?	
問題9 (CP9) 題19	この写真の場所は加治木小の敷地内ですか?	

ボーナス問題は出題から問題の題名が書かれます。  
問題はゴールの所に隠されています。  
解答用紙はかまのりの人に提出して、解答時間記入してもらってください。

## 湧水の地域おこし協力隊から幸田小へ

### 幸田の棚田「休耕地再生へ」田植え体験

湧水町の地域おこし協力隊が幸田の棚田の休耕地再生へ、幸田小学校に協力を要請し今回の田植えが実現した。通常は学校横を借りて農業体験を実施していましたが、今年は校区内にある棚田での田植え体験をしました。

第二土曜日に全校児童と保護者2名が協力し田植えを実施した。いつもとは違う体験を味わった。狭い敷地に落ちそうな恐怖も味わいながら、ぬかるんだ田んぼに足を取られての体験となった。

5年川島さんは「棚田に行って、田植えをしたのは初めてだったので、きんちょうしたけど楽しかったです。秋にはいねかりがあるので、きれいなお米ができていますか楽しみです。」5年下園さんは「あめんぼ、おたまじゃくしもたくさんいました。また、棚田は高さがあるので落ちそうで怖くてたまりませんでした。」ぜひ、「棚田百選」を見に来てください。





# 羽月西校区コミュニティ協議会 「大きく育て」鮎の放流体験

とき：4月17日(日)  
場所：伊佐市  
馬渡川にて  
(もたい)



伊佐市羽月西校区コミュニティ協議会では、校区内に流れる馬渡川に4月17日(日)に川内川上流行行協同組合が提供する鮎の稚魚、約3千匹を放流した。

昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、漁協関係者と地域住民で放流を行い、本年度はコロナ感染防止策をとり、羽月西小児童11名、卒業生1名、未就学児1名、校区外に通っている子ども達及び保護者等の計25名程で行いました。

当協議会では、8月に「放流アユを捕ろう」と企画をしている。捕れた鮎はバーベキュー大会でいただくことになっている。

羽月西校区コミュニティ協議会、社会教育指導員の中山敏博さんは「子ども達に地域のことをもっと知ってもらおう」と計画を立てています。

【例：田車押し、ミニ遠足、地域を知ろう等々】



## 牧園地区自治公民館 無線放送にて 「牧小っ子音読放送」毎週日曜夕方

運動会や祭りが中止となった昨年、地域と学校の交流がほとんどできなくなり、危機感を持った隈元仁志館長が、学校に音読放送を提案し、地域無線で行うことになりました。

今回の音読活動は、学校で収録した音源をCDに取り込み、隈元館長宅に届け、日曜日の夕方6時から校区内の地域無線で放送しています。

児童からは「緊張した。聞く人が聞きやすいと思われたらいい。」などの感想が寄せられました。隈元館長は、「元気な声に力が沸いたと喜ぶ声が寄せられた。地域無線がもっと普及すると緊急放送時にも役立つのだが。」とも話していました。

音読後はお礼の気持ちとして蛍光ペンと放送に使ったCDがプレゼントされ、子どもたちも喜んでいました。

